平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

整理番号	9	ー	8

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	利子補給補助事業					
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		農務係
	管理職	職名	課 長	作成者	職名	主 査
		氏名	石 井 弘 道		氏名	宇 野 敏 志
事業の概要	農業者の経営安定化を目指すために貸付けられた資金に対する利子補給を行うことにより、償還の負担が軽減され、ゆとりある酪農経営への支援が図られる。					

全体計画	/単年度繰返	
（平成 20 年度～ 24 年度）		
事業費	国・道支出金	10,922 千円
	地方債	千円
	その他	千円
	一般財源	10,779 千円
	事業費計	21,701 千円

実施方法	■	直 営		民間委託		その他 （ ）
第５期 総合計画（前期）	■	登載事業		非登載事業	優先度	A

事業の位置付け	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～
	基本施策	1	農業の振興
	単位施策	2	担い手（人・組織）の強化
	事務事業の種類	■	自治事務
			法定受託事務
	その他計画・根拠等		北海道農業関係制度資金に係る利子補給等の事務取扱要領

事業費	実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)
	国・道支出金	2,059 千円	1,990 千円	1,939 千円	1,894 千円	2,311 千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額（一般財源）	2,014 千円	1,956 千円	1,916 千円	1,880 千円	2,300 千円
	合計	4,073 千円	3,946 千円	3,855 千円	3,774 千円	4,611 千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	資金借入農家	望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）		
【抱える課題やニーズは】	借入資金利子の高負担	利子補給額		
		指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	償還負担軽減による経営の安定化	① 利子補給額	目標年度	平成23年度
			目 標 値	3,774 千円
			実 績 値	3,774 千円
			達 成 度	100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的	農業生産の拡大により一定水準の農業所得を確保する。	②	目標年度	
			目 標 値	
			実 績 値	
			達 成 度	%

内 容（どのような手段で何を行ったか）	
借入資金に対する利子補給	農業経営基盤強化資金・大家畜経営活性化資金を借入している農家への利子補給（北海道と町で助成）

3 事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	国の制度に基づく事業であり、今後の酪農経営の安定化を図るため必要である。

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	借入した資金の利子を補助することにより、農家の負担の軽減が図られ、安定した酪農経営が図られる。

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 □事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 ■その他	道と町との負担割合が定められているため、コスト削減等の余地はない。

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 ■受益者負担がある ■受益者負担がない □受益が一部に偏る □その他	対象資金に対する利子補給であり、その資金を借入したすべての者が対象となる。（農業経営基盤強化資金については一部） 大家畜経営活性化資金　～　受益者負担あり 農業経営基盤強化資金　～　7～19受益者負担あり 19～21受益者負担なし 22～　受益者負担あり

4 総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
酪農業の現状は、飼料等の価格高騰により経営を圧迫しており、本事業を実施することで経営の安定化が図られる。		

今後の展開方向
（Action）

継続／現状維持		
酪農業の現状は現在も好転してはいないことから、本事業を継続することは経営安定化を図る上で必要である。		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5 その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）